

はじめに

環境アセスメント

大牟田市では、基幹産業の1つであった三井三池炭鉱閉山後の地域活性化策として、21世紀に向けた資源循環型社会の形成に多大な貢献が見込まれ、成長産業と期待される環境・リサイクル産業の導入・振興を図ることとしています。

本市は、平成8年度に健老町・新開町地区の炭鉱跡地を活用した環境・リサイクル産業の事業化可能性を調査し、9年度にはその具体的事業化についての指針となる「大牟田市中核的拠点整備実施計画」を策定しました。また、平成10年7月には、この実施計画を基本とする「大牟田エコタウンプラン」が国においてご承認いただきました。

環境・リサイクル産業は、廃棄物を単に燃やす、埋めるという、これまでの考え方から転換し、資源として活用しようというものです。便利で豊かな生活を求めてきた結果、ゴミが増えるという事態を招いてしまいました。こうした生活様式も現在見直す時期にきているといえます。

そこで、便利さ、快適さを保ちながら、街がにぎわい、美しくなるためには、ゴミをできるだけ減らし、分別収集を進め、リサイクルしていくことが必要となってきます。そしてそれが産業として育ち、発展していけば地域の活性化も実現できると思いますし、この事業を進める価値があると考えています。

本市が環境・リサイクル産業を導入することによって、炭鉱閉山後の新産業の創出、自然環境・生活環境の保全を図り、RDF発電所などにより、積極的かつ広域的なダイオキシン類の削減を目指すと共に、資源循環型社会のための資源化施設の整備、さらには、全市民的なリサイクルの取り組みの推進、環境情報ネットワークや国際産業交流を通じた情報の蓄積やノウハウを持つ等、他都市に一步先んじた「環境にやさしい美しいまち」を創造し、市民の皆様の健康を積極的に守っていく都市でありたいと考えております。

この環境影響調査報告書は、本計画が適切な環境保全対策を伴い推進されるよう、予めその影響について慎重に調査・検討のうえ予測・評価を行いとりまとめたものです。

本環境影響調査報告書における調査・検討の結果とあわせ、本計画の趣旨について、市民の皆さまのご理解をお願い申し上げます。

平成 11年 9月
大牟田市長 栗原 孝